

HIJIORI LIGHT PROJECT 2008



灯籠「ひじおりの灯」が照らします、肘折温泉1201年目の夏。

約4,000人の村民が暮らす、懐かしく深い村・山形県最上郡大蔵村、さらに山の奥底に「肘折温泉」はあります。肘折は観光を目的とした温泉地ではありません。自然とともに生きる農業文化の暮らしにあわせて農閑期に骨休みをし、古くからの湯治場として知られています。また、月山の登山口でもあることから、江戸時代は山岳信仰の聖湯として栄えました。現在は夏明けとともに立つ緑の山並みがらみ、お参りたちが狭い路地を駆け回り、下駄を履かしながらのんびりと行き交う静かな風情が好まれて、年間12万人の高層客を迎えています。

肘折温泉は昨年夏、開湯から1200年を迎えました。小さな温泉街にある温泉の歴史を祝うたくさんの人々が集い、さまざまな神事やイベントがおこなわれましたが、そんな中、温泉街通りでほのかに灯る23基の灯籠がありました。八角の灯籠「ひじおりの灯」は、東北芸術工科大学が進める東北ルネサンスプロジェクトの地域活性化モデル事業として、教員と学生が肘折地区での推進を受けて制作されました。

灯籠の骨組みは、庄内地方の職人職人が、自前の伝統工芸「椀子」の技術で組み上げ、紙は地元産の手漉し「月山和紙」を葺きました。日本産の学生が産学生たちは、そこに温泉街の景色や、現地の山や、岩山に穿かれた地蔵堂や、大蛇伝説、朝市の賑わいなど、この地域の様々な風物を描きました。山形の伝統技術に生まれ、美しく葺かれた若者たちの灯籠絵は、温泉街の目抜き通りに立ち並ぶ23基の灯籠の軒先に沿って、湯治場の後を幻想的にライトアップしました。湯治客は夕涼みや暮れを、灯籠を眺め温泉街を巡り歩き、また新たな発見も。7月13日に開催される灯籠の点灯にあわせたくらに備えています。

都市の喧騒を離れて母なる大河・最上川を渡り、雪を冠した月山を眺めながら蕎麦の花咲く高原を抜け、カマデラ盆地の底へと一気に下った...そこは古の日本を感じる温泉街と、「ひじおりの灯」が静かに点灯してあたたかき肘折を持っています。

- 東北ルネサンスプロジェクト in 肘折
プロジェクトリーダー 赤坂憲雄 (東北芸術工科大学学長・東北文化研究所長)
肘折温泉プロジェクト実行委員会 梅崎博義 (梅崎印刷) / 渡部恒夫 (梅崎印刷) / 須藤修一 (タナカ洋装)
梅崎卓義 (タナカ洋装) / 安彦加一 (タナカ洋装) / 福本浩二 (梅崎印刷)
梅崎吉彦 (梅崎印刷) / 梅崎隆一 (タナカ洋装) / 山本茂樹 (福山茂樹)
早坂隆一 (早坂隆一)
アドバイザー (東北芸術工科大学教員) 森繁義 (梅崎印刷) / 竹内昌義 (福山茂樹)
たけいし (福山茂樹) / 山崎和樹 (梅崎印刷) / 石井博康 (梅崎印刷)
コーディネーター 宮本武典 (東北芸術工科大学教員)
梅崎隆一 (タナカ洋装)
参加アーティスト 東北芸術工科大学学生・大学院生有志 (代表:後藤智洋子、立花萌香)
津瀬コウ 卒業生有志 (後藤真美・後藤洋子・後藤暁)
若月公平 (東北芸術工科大学)
特別出品 若月公平
灯籠制作 庄内木工技術研究会 (梅崎印刷) / 下山基行 (梅崎印刷)
三浦一之 (梅崎印刷)
主催 東北芸術工科大学「肘折地区」
協力 アサヒビール株式会社 (山形支店)

HIJIORI LOCATION MAP

ART PROJECTS
絵描きの朋たちは、肘折をどのように表現したのか？
作者による夜の作品解説-グループ「肘折絵語り」夜語り
肘折の魅惑で糸を絡め、採取した植物を「肘折葺き」が、上の湯の内壁に設置されました。
東北芸術工科大学で染織技術を学んでいる学生たちが、天然染料で染めた糸を肘折温泉の源泉や美奈温泉のソーダ、銅山、寄木川などに染めた。
肘折の温泉街を歩くと、湯治場や温泉街の景色や、山形の風景が目に飛び交います。
「古き良き」湯治場として昔ながらの人々に訪られてきた肘折。
東北文化研究所が収集、公開している膨大な絵巻データベースの中から、肘折に関するアーカイブの一部を復刻絵巻として再生しました。
2007年度の「ひじおりの灯」で発表した図鑑を木枠を外れ、また絵巻として肘折温泉街に展示します。
2007年度の「ひじおりの灯」で発表した図鑑を木枠を外れ、また絵巻として肘折温泉街に展示します。

2008年7月13日(日)〜8月20日(水)
山形県最上郡大蔵村肘折温泉
第1回 灯籠鑑賞会
東北芸術工科大学プロジェクト事業
HIJIORI Light Project
肘折地区にある23基の灯籠。今年も新しく描かれた絵が、湯治場の夜を彩ります。

HIJIORI LIGHT PROJECT 2008
2008年7月13日(日)〜8月20日(水)
山形県最上郡大蔵村肘折温泉
第1回 灯籠鑑賞会
東北芸術工科大学プロジェクト事業
HIJIORI Light Project
肘折地区にある23基の灯籠。今年も新しく描かれた絵が、湯治場の夜を彩ります。

31 DRAWINGS
2008年7月13日から12日まで、「ひじおりの灯」制作のために23日におこなわれた肘折温泉への取材旅行は、東北芸術工科大学で洋画、版画、日本画、美術教育を学ぶ産学生他、卒業生も参加しました。
肘折温泉を訪れた学生たちからは、温泉街の風景や、湯治場の様子、山形の自然の美しさ、温泉街の賑わいなどが、それぞれの作品に表現されています。

WORKSHOPS
どこをとっても「絵になる」
肘折の風物を描いてみましょう。
湯場先生のスケッチ指南。(参加者募集中!)
肘折の日本美術院で大賞賞を受賞した日本画家、湯場三郎先生に、肘折の風物や温泉街の美しさを描く方法を伝授いただきます。
2008年7月13日(日)〜14日(月)2日間
開催時間：10:00-17:00
開催費：2008年8月17日(日) 19:00-
ワークショップ開催費：2008年8月17日(日) 19:00-
肘折地区の23基の灯籠。今年も新しく描かれた絵が、湯治場の夜を彩ります。

「ひじおりの灯」実施について～東北芸術工科大学美術大学院協賛
〒990-9530 山形県山形市上飯坂3-5-8
TEL 023-627-2043 / FAX 023-627-2085
muse@ega.tuad.ac.jp
肘折温泉
湯治場先生のお話を聴いた移動式茶室。
「お茶室」が水戸から肘折に出張営業。
肘折温泉
「ひじおりの灯」で発表された図鑑を木枠を外れ、また絵巻として肘折温泉街に展示します。